



選手の数だけ物語がある

ー 上村遼太郎選手

ラグビーは15人が一つになって戦うスポーツですが、チームを構成するのは一人ひとりの選手たちです。今回はルリー口福岡で活躍する上村遼太郎選手にスポットを当てました。フッカーのポジションを担う上村選手は、浮羽究真館高校出身です。帝京大学に進学し、卒業後、うきは市に戻り、うきは郵便局で働きながらラグビーを続けています。

ーラグビーをはじめたきっかけは？

幼稚園の頃、相撲大会に出場し、三年連続で優勝するような子どもでした。周囲の人からよく「力が強いね」と言われていました。小学校に入り、福岡市東区のラグビークラブ「かしいヤングラガーズ」に連れて行ってもらい、自分の力が活かせると思ったことです。

ー地元を離れた究真館高校での高校生活はどうでしたか？

ヤングラガーズのコーチから、ラグビーに熱心な吉瀬先生（ラグビー部監督）がいらっしゃる浮羽究真館高校を紹介され、自分を高めることができる場所だと感じて進学しました。下宿生活で、勉強とラグビーを両立しながら、洗濯などの自分の身の回りのことを自分でやることで、大きく成長できたと感じています。一番の思い出は、はじめて先発メンバーで出場した試合です。緊張で何もできなくて、「もっと上手になりたい！」と強く思いました。また、吉瀬先生から、ラグビーに対するマインドを教えていただいたことも、今の自分の原点になっています。東福岡高校という強豪校を超えるため、みんなで一から鍛えて挑戦し続けたことはとても良い経験になりました。

ーその後、関東の帝京大学に進学されたんですね。

帝京大学は全国大学ラグビーフットボール選手権大会9連覇の強豪で、その中に自分が飛び込んだらどうなるのかという好奇心と挑戦の意味で進学を決めました。ラグビー部にはすぐには入部できず、2年生の時の選抜を経てようやく入部でき、朝から晩までラグビー一色の毎日でした。公式戦に出場することはできませんでしたが、ラグビー部に所属した3年間で3連覇を達成でき、チームのみんなと喜びを分かち合えたことが心に残っています。

ールリー口福岡に入団しようと決めた理由は？

吉瀬先生から、「できたばかりのチームで、リーグワンへ参戦するぞ」と聞き、素直におもしろそうだなと思いました。次はどんなチャレンジをしようかと考えていたので、まさにルリー口福岡がおもしろそう、と感じたことが入団を決めた理由です。ルリー口福岡は、想像していた以上に選手一人ひとりが上を目指しているチームで、みんなに置いていかれないよう、みんなに負けないよう、日々努力を重ね頑張っています。また、地域の方々との交流が多いこともルリー口福岡の特徴なので、イベント活動などに参加することも楽しみです。



うきは郵便局で働く上村選手



ボールを持ってプレーする小学生の上村選手

ーうきは市に戻り、働きながらラグビーを続ける生活はどうですか？

ルリー口福岡に所属していることで、よく町の人に声をかけていただきます。一般の人より体が大きいので、「何かスポーツをしているの？」とよく質問されます。職場内でも「今日も練習頑張ってるね！」と応援していただき毎日元気をいただいています。

高校時代はあまり感じなかったのですが、うきは市に戻って、うきは市にはラグビーが身近にあると感じます。町中でルリー口福岡を応援してくれる旗をたくさん見かけます。その旗を見ると、たくさんの方々の応援に応えるため、自分ももっと頑張らなければならないと思います。

ー最後に応援してくれる皆さんにメッセージをお願いします！

まだまだ発展途上のチームですので、これからうきは市の皆さんに、そして全国の方に応援されるチームになるためがんばります！

応援よろしくお願いします！